

# 教育委員会定例会議事日程

令和5年9月1日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項  
令和5年度 横浜市教育課程研究協議会の開催報告について  
中学校給食展の開催結果について
- 3 報告案件  
教委報第2号 令和5年度歳入歳出予算案（9月補正）に関する意見の申出に係る臨時代理  
報告について
- 4 その他

## 教育委員会定例会 一般報告

### 1 市会関係

### 2 市教委関係

#### (1) 主な会議等

- 8/18 令和5年度 横浜市教育課程研究委員会 総則部会 研究協議会 全体会
- 8/21 令和5年度 一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現部会 全体会
- 8/24 よこはま子どもピースメッセンジャー・子ども実行委員委嘱式
- 8/24 横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校 サイエンス教室
- 8/28 横浜市立汐見台小学校 新校舎落成記念式典
- 8/28～8/31 令和5年度「横浜子ども会議」区交流会

#### (2) 報告事項

- 令和5年度 横浜市教育課程研究協議会の開催報告について
- 中学校給食展の開催結果について

### 3 その他

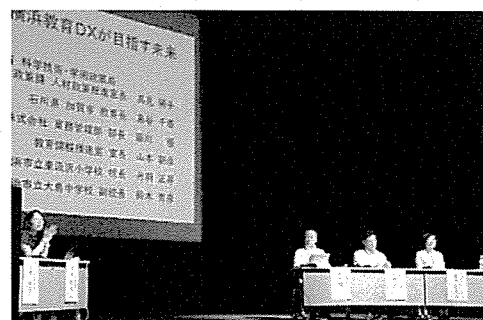
## 令和5年度 横浜市教育課程研究協議会の開催報告について

本市教育委員会では、市立学校の教育課程の編成・実施・評価・改善を促進し、学習指導の充実を図るため、教育課程研究委員会 総則部会及び専門部会を組織して研究を進めています。毎年、8月に研究協議会を開催し、事務局説明、各教育課程委員の実践を通じた研究成果の発信、参加者による意見交換等を行っています。

今年度は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をテーマとし、一人ひとりを大切に誰一人取り残さない学びを実現し、子どもたちにグローバルな社会の中で生き抜く力を育てていくことを全市共通の目標として研究を進めてきました。

総則部会では、IRTを生かした学力向上の取組、社会情動的コンピテンシーの調査研究、教育DXを踏まえた個別最適な学びと協働的な学びについて有識者とともに議論し、これから求められる教育の方向性について考えました。

また、昨年度初めて設置した「一般学級における特別支援教育専門部会」を「一般学級における『誰一人取り残さない』教育の実現部会」とさらに対象を拡大して開催し、全ての子どもの豊かな学びの実現を目指して協議を行いました。



### 1 令和5年度 教育課程研究委員会 研究テーマ

「育成を目指す資質・能力」を育むカリキュラム・マネジメント  
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～

### 2 令和5年度 教育課程研究委員会 総則部会及び専門部会 参加者数一覧

	開催日	会場	参加者数		
			集合	オンライン	合計
総則	8/18	関内ホール	580	433	1,013
一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現	8/21	関内ホール	463	420	883
国語	8/22	緑園学園	241	525	766
社会	8/23	港中学校	198	387	585
算数、数学	8/23	神奈川小学校	165	412	577
理科	8/23	鴨居小学校	147	388	535
生活	8/22	花咲研修室	222	137	359
YICA、外国語	8/23	港南中学校	200	406	606
音楽	8/22	茅ヶ崎中学校	294	262	556
図画工作、美術	8/23	下末吉小学校	234	241	475
家庭、技術・家庭	8/22・23	花咲研修室	181	413	594
体育、保健体育	8/22	南中学校	207	493	700
道徳	8/23	花咲研修室	264	268	532
特別活動	8/22	川上北小学校	226	406	632
総合的な学習の時間	8/22	花咲研修室	233	255	488
個別支援学級	8/23	西公会堂	540	97	637
通級指導教室等	8/22	特総センター	42	187	229
特別支援学校	8/21	花咲研修室	328		328
高等学校	8/17	戸塚高等学校	269		269
合 計			5,034	5,730	10,764

※いずれも暫定値であり、正確な人数は現在集計中です。

### 3 令和5年度 教育課程研究委員会 研究協議会の発信

#### 総則部会からの発信（8月18日）

##### ◆ IRT型 横浜市学力・学習状況調査の全校実施から見えてきた「学力」の伸び

国立教育政策研究所 学力調査官 渡辺 誠 氏  
名古屋大学 准教授 光永 悠彦 氏 ほか

調査によって得られたデータを活用して、子ども主体の学習に向けた授業改善を図り、一人ひとりに合った最適な支援の在り方について考えていくことが大切であるということについて議論しました。

##### ◆ 学力と社会情動的コンピテンシーを一体的に育む学校教育

京都大学 准教授 高橋 雄介 氏  
横浜国立大学 准教授 鈴木 雅之 氏 ほか

個と集団の両方をバランスよく育んでいくためには、これまでも大切にしてきた学級経営や学年経営をしっかりと行っていくことが必要であることについて語られました。

##### ◆ 教育の質の向上を図るカリ・マネの挑戦

文部科学省 初等中等教育局 財務課 校務改善専門官 佐藤 悠樹 氏 ほか

子どもたちを取り巻く学びの空間や時間の見直しを図るとともに、子ども自身が自分に合った学習の内容や方法を選択することのできる環境をつくっていくことが大切であることが語られました。

##### ◆ グローバル教育と横浜教育DXが目指す未来

文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長 高見 暁子 氏  
石川県加賀市 教育長 島谷 千春 氏  
大塚製薬株式会社 業務管理部 部長 藤川 優 氏 ほか

人が育つ環境としての学校の価値を問い直す中で、変わるものと変わらないものや、これからの教師の役割について議論を深め、グローバル教育と教育DXの本質に迫りました。

##### 参会者の感想

- ・企業や自治体、教育関係者などそれぞれの立場からの話を聞くことができ、非常に考えさせられた。今日の一日のなんと短かったことか。全教職員で共有し、これからの学校経営に生かしていきたい。
- ・自主・自立した子どもを育てていくために、教師が目指す子ども像を見据え、これまでの考え方を改めて新しい視点でチャレンジしていくこと、その際に「高度な主観」と「客観性」の両方を併せ持つことの必要性を感じた。校長として、発信していきたい。

#### 一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現部会からの発信（8月21日）

##### 第1部 全ての子どもの豊かな学びの実現を目指して

##### 第2部 座談会① 一般学級における「誰一人取り残さない教育」への挑戦

##### 第3部 座談会② 一般学級における「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて

横浜国立大学 副学長 泉 真由子 氏  
白百合女子大学 准教授 涌井 恵 氏  
横浜国立大学 講師 高野 陽介 氏 ほか

##### 参会者の感想

- ・特別支援教育を推進するための意識として、自分の学級や学年の生徒だけでなく、「うちの学校の生徒」という意識をもつこと、組織的に取り組むことが大切だということを再確認できた。
- ・以前は一律に同じ指導をすることが公平としてきたが、今の教育は必要としている子どもに必要な支援をすることが公平と変わってきていることを、全教職員に理解してもらいたいと思った。

#### 各教科等専門部会からの発信（8月22日・23日）

各教科等の役割を明確化し、教科等固有の学びやそこで身に付ける資質・能力について考えていくとともに、社会情動的コンピテンシーを育むための学習環境である学級経営や学年経営を含めた授業改善の好事例について教科等ごとに発信し、議論しました。

# 中学校給食展の開催結果について

いっしょのもの、食べた思い出、いっしょうもの。

横浜市では、子どもたちの心身の成長、そして豊かな食生活のために、令和8年度から全員給食(デリバリー方式)を実現するための準備を進めています。

中学校給食展では、横浜市が目指す全員給食の姿や価値を、実際の生徒たちの写真や言葉、中学校給食スローガン「いっしょのもの、食べた思い出、いっしょうもの。」に沿った展示、演出により表現しました。

## 中学校給食展の概要

【実施期間】 令和5年8月5日(土)～22日(火) (18日間)

【場 所】 横浜市庁舎2階プレゼンテーションスペース

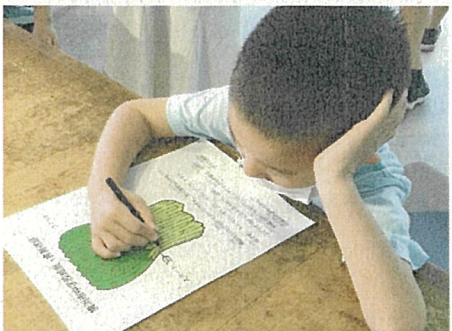
【内 容】 中学校の教室を再現しながら、黒板チョークアート、タペストリー、パネルの展示やプロモーション動画により横浜市が目指す全員給食の姿を感じていただく企画展としました。

また、給食を調理する回転釜や野菜の摂取量を測れるベジチェックなどの体験コーナーも設け、子どもも楽しめる内容としました。

【来場者数】 延べ1万9,877人

## 中学校給食展の様子

お子様連れの方に多く来場いただき、「中学校の給食って今はこんな感じなんだ」「全員給食になるのは助かる」「子どもがこれから食べる給食を親も知れてよかった」「横浜らしく海外の料理を多く取り入れてほしい」などの声をいただきました。



## 今後の展開について

中学校給食展で作成した、プロモーション動画やタペストリー、パネルなどを有効活用しながら、区役所で実施するイベント等と合わせて広報するなど、全員給食の姿や価値を積極的に広報します。

【参考】プロモーション動画

#1 「つながる」編



#2 「新たな発見」編



#3 「健康を実感」編



【参考】中学校給食ブランドスローガンについて

いっしょのもの、  
食べた思い出、  
いっしょうもの。

横浜市中学校給食

令和8年度からの全員給食の目指すべき姿を表現するものとして、中学校給食ブランドスローガンを策定しました。

スローガンには、全員給食によって「今まで以上に楽しい給食の時間を提供すること」、「子ども達の心に残る給食を作っていく」という横浜市の思いを込めています。

また、給食には、食育の観点 중요합니다。「食材の旬を知った」「好きな献立の日は朝から楽しみだった」「嫌いな食材も給食では頑張って食べることができた」など、誰もが給食に関する経験や思い出があるのではないのでしょうか。

成長期の食事、経験が子ども達の将来に渡る食生活の基本をつくります。

給食で「健康な体になる」という価値以外にも、「いっしょに」食べることで友達との会話などをおして、生徒がつながりや感謝の気持ちを持ったり、新たな発見をするなど食育の観点でも大切な価値があります。そんな給食の価値を広く伝えるスローガンとしました。